

KIMAI



医学生と香川民医連を むすぶ情報誌。

CONTENTS

- ・キラッとかがやく医師のしごと
- ・報告 小豆島フィールドワーク
- ・熊本震災支援レポート
- ・高校生の広場

2016 SUMMER

香川民主医療機関連合会

※キマイ=讃岐(さぬき)弁で「来てね」という意味

かがやく医師のしごと

高松平和病院・整形外科の高橋医師に、
病院でどんな仕事をどんな思いでしているかを聞きました。

整形外科といってもその分野は様々あります。脊椎、肩、手、股関節、膝関節、足など部位別専門や、骨折、人工関節、骨粗鬆症、腫瘍、再建など内容別専門があり、当院の整形外科は上記の中だと股関節・膝関節の人工関節、脊椎、骨折、骨粗鬆症を強みとしています。

当院の手術日は火曜日と金曜日で、平均で1日4件、週8件程度の手術をおこなっています。手術の基本は正確性ですが、“組織や機能を温存する”“痛みや出血を抑える”“合併症を起こさないこと”が大変重要です。当院での人工関節置換術は股関節、膝関節ともに筋肉を切らずに置換する、筋間アプローチを導入しており、組織損傷、疼痛、出血量、手術時間を大幅に押さえることが出来ています。人工股関節、人工膝関節ともに1時間以内に手術を終えることが出来ています。

Dr高橋インタビュー

Q 「趣味は？」

A 硬式テニス。

Q 「高校・大学時代で一番思い出に残っていることは？」

A 大学のハンドボール部でチームメートとあらゆる苦楽を共にしたこと。

Q 「医師になってから一番思い出に残っていることは？」

A 研修1年目の終わりに東日本大震災が起こり、宮城県に支援に行ったこと。



高橋 啓太 医師

Doctor Keita Takahashi

profile

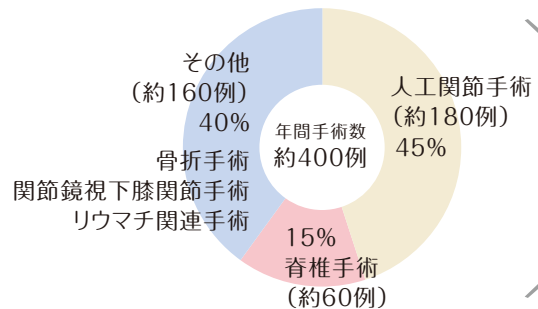
高松平和病院 整形外科医

香川県出身 丸亀高校卒 山口大学2010年卒

外来は週に1回。担当制です。術後の患者さんのフォローアップが中心です。膝が痛い、股関節が痛いを受診される患者さんに対しては、全例手術を計画するのではなく、その人の状態をみて、まずは手術以外でなんとか改善しないかトライしていただきます。わたしは最後の砦の手術でよくしてあげられる自信はありますが、患者さんからすれば手術しないで済むのが一番だと考えています。

その他に、病棟の入院患者さんのカンファレンスや回診、薬処方の確認と調整、術後画像検査の説明などを行っています。当院には優秀な看護スタッフ・リハビリスタッフがいますので、チーム医療の船頭として軌道修正を行う事が主な役割です。

高松平和病院 整形外科 年間手術内訳



高松平和病院整形外科では、年間手術数約400例で香川県下でもトップクラスです。

医学生の実習では、手術見学を低学年でも申し込みを受け付けているので、気になる方は学生担当までお問合せください。

Q 「整形外科医になろうと思ったきっかけは？」

A 大学5年生で病院実習に行き、①メスが持たたい ②症状が劇的に良くなる
③手術の成否が画像ではっきりわかるところに魅力を感じて。

Q 「医師になって喜びを感じるのはどんな時？」

A 膝や股関節の手術をした患者さんに「旅行に行ってきたんです。」と言われた時。

Q 「お子さんが今年生まれましたが、なにか変わったことはありますか？」

A 死にたくない、長生きしたいと強く思うようになった。それと残業したくなくなったかな(笑)

Q 「医師を目指す高校生・予備校生へのメッセージ」

A 医師に限らず、人に喜んでもらえる仕事はやりがいがあると思いますが、いろいろな仕事の中から同じ道を選んでくれたらうれしいです。一緒にがんばっていただけたらなと期待しています。



早くから専門の科を絞るのもいいですが、
できるだけ広く浅く勉強した方が
後々専門に進んだ時に役立つと思います。
がんばってください。

小豆島フィールドワーク

3月27日～28日 離島フィールドワーク（以下FW）の第4弾として小豆島に行ってきました。北原医師（高松協同病院）、原田医師（高松平和病院）も同行。参加した学生は医学生・薬学生・看護学生・栄養学科生の合計17名でした。

小豆島は香川の離島の中で唯一、医療生協の組合員さんの支部がある島です。香川医療生協の病院・施設はありませんが、1,000名を超える組合員さんがおり、熱心に班会などの活動をされています。また小豆島は「二十四の瞳」の舞台であり、作者の壺井栄氏の故郷です。組合員さんのお話を聞くことと平和学習もできるのではない、小豆島を選びました。

事前学習と下見

まずは2月24日夜、学生10名が集まり、事前学習として映画「二十四の瞳」を観ました。「二十四の瞳」は何度かリメイクされていますが、この日は一番古い高峰秀子さん主演の映画を観ました。白黒の画面がよりリアルに時代の空気を映し出します。貧しいがゆえに学びたくても学

べない子どもの姿や戦争に翻弄される人々の姿を見て、「もしも自分や友だちが同じ立場だったら

…と思うと、胸が詰まる気持ちでした。」と涙ぐみながらの感想交流となりました。

3月3日には、学生2名と一緒に小豆島下見に行きました。土庄町が作った戦争体験記を片手に土庄町に行くと、町役場担当者の方が丁寧に戦跡のある場所を教えてくださいました。土庄町湊崎には、陸軍船舶特別幹部候補生隊駐屯跡地があります。1994年2月に身体強固で頭脳明晰な旧制中学在学学生かそれ以上の学歴を有する人が公募され、1期生～4期生まで総勢約7,000名が小豆島土庄町で極秘に訓練されました。1期生にあたる1,800名のうち、約1,600名は海上特攻隊員として爆雷を搭載したベニヤ板製の2人乗り小型ボート乗組員となり、大半が戦死されました。跡地に行ってみると、探していかないと通り過ぎてしまうくらいの石碑と説明板がありました。香川県民でもあまり知らなかったこの島の歴史を知り、小豆島FW本番でもぜひみんなに学んでもらおうということになりました。



▲みんなで小豆島へ出発!



▲瀬戸内のやさしい海風を受けて天日干し



▲素麺製麺所での箸分け体験



▲本場で食べるとさらに美味





▲グループディスカッション

小豆島FW本番、平和学習～小豆島戦跡めぐり・ 「二十四の瞳」映画村見学

事前に「二十四の瞳」を読んでいたので、何の罪もない子どもたちが、時代の波にのまれるようにして戦争に巻き込まれてしまうのが、何とも言えず悔しいなと思いました。そしてその中で、子どもたちに生きてほしいと切に願う主人公：大石先生の思いがひじょうに浮かび上がりました。戦跡めぐりをしている中でも、きっと当時そういう先生もいたのだろうな、幼い頃は何も考えずに過ごしていたのに、気づけば命を国に自ら捧げていく子どもたちがこんなにもたくさんいたのだなと改めて気づかされました。なぜ戦争が起きてしまったのか、なぜ止めることができなかったのか……。考えれば考えるほど今の世の中と当時の世の中とが重なって思えました。平和の群像がある意味をもっともっと強く受け止めなければならないと思います。今後、第二の碑を建てることが決まっていのように…。(Gさん薬学生)

組合員さんの話を聞いて

小豆島の高齢化が想像以上に進んでいる。若い人が居づらい環境なのだと分かった。いつまでもこの状態だと若い人は減る一方なので、何か対策が必要だと思った。でも何ができるかなと悩む。

地域の人同士のつながりはしっかりしていてステキ



▲組合員さんの話をいろいろ聞かせていただき、とても参考になりました

だと思った。しかし、行政と住民の望んでいることには差があって、壁があるように感じた。

戦争の話を聞いていると、本当に当たり前のことが当たり前じゃなくなるんだと改めて分かった。(Yさん看護学生)

グループディスカッションをしたり、夕食交流会をしたりする中で参加者同士が仲良くなれました。また小豆島の素麺製麺所で箸分け体験をしました。製麺所職員なりの苦労(朝早い作業、寒い時期特有の悩み)についても聞くことができました。素麺はとても美味しく学びも楽しみもいっぱいのFWになりました。



▲昭和ヘタイムスリップ、岬の分教場



▲「二十四の瞳」映画村



▲「二十四の瞳」映画村

- ◀写真左
陸軍船舶特別幹部候補生隊駐屯跡地
- ◀写真右
富丘八幡神社にある瀬崎護国神社



熊本地震 震災支援 レポート

※研修医日記は今回お休みします

2016年4月14日、熊本地方を震源とし最大深度7を
観測した熊本地震が起きました。
死者49名、負傷者1,684名(2016年5月24日現在)、
避難者は最大183,882名にものぼる大災害となりました。
香川民医連では、震災支援第1陣として4/23~26に
佐藤龍平医師、植本真由医師、事務小池和美が参加しました。
主に医療支援活動をした4/24~25の
佐藤龍平医師の報告をまとめて紹介します。



佐藤龍平医師

Doctor Ryohei Sato

Profile

高松平和病院 家庭医
香川県出身 高松高校卒
鹿児島大学2011年卒

4/24(日) 外来、救急対応

今日は、熊本市のくわみず病院で支援として外来、救急対応
をしました。病院スタッフも被災し、避難所生活、車中泊をしな
がら勤務している人が約3分の1だそうです。支援の目的は現
地スタッフを少しでも楽にすることです。研修医の植本医師と
行動し、支援の合間に研修指導もしました。感染症、喘息、不
安障害など内科的疾患が多い印象でした。患者さんは、避難
所にいる高齢者、自身が被災しながら避難所でボランティアす
る方、県外からライフライン復旧のためにきた労働者など多岐
に渡りました。県外から来ていることを伝え、震災後いかに
必死にやってきたかを涙ながらに語ってくれました。一方で支
援者が疲れ果てないように配慮されており、植本医師から「支
援者のケアができてこそ被災者のケアが良くなる。民医連は支
援者のケアを考慮しているのがよい。」との発言があり、とても頼
もしく感じました。



▲TV、新聞等の報道で見聞していたものの実際の現場は悲惨な状態。

4/25(月) 外来、当直

午前到来をし、夕方から当直に入りました。比較的元気な
大人の呼吸器感染症、高齢者の尿路感染症が多く、総合内
科的な力が必要でした。避難所にいる高齢者の認知症が悪
化し避難所に居づらい、埃っぽくドアが開けっ放しなので風邪
が悪化したなど避難生活が限界にきていることが感じられまし
た。血圧コントロールが悪くなっている方が多く東日本大震災
で指摘されていた通りでした。「避難所での食事は脂っぽく、
口に合わないので帰りたい」とこぼす高齢女性も。認知症、精
神疾患など震災弱者と言われている人達の状況はかなり厳し
いです。

午後休憩のときに、益城町を回る車に同乗させてもらいま
した。病院周辺とは違って変わって、瓦礫の山、潰れた家、ひび割
れた道路…凄まじさが伝わりました。



◀震災支援のために熊本市
のくわみず病院に集まった
他県の民医連のメンバー。

支援のための現状報告、
連絡事項、役割分担等の
打ち合わせ風景。

支援で考えたこと

- ①被災者が主役の復興支援をどのようにしていくか？
現地のニーズは遠方からでは分からないことがよくわかりました。
- ②オーダーメイドな支援をどうするか？
特に医療の面ですが、普段なら個別に調整して医療を提供
するはずが、避難者になって個性を無視した環境になること
で疾患が悪くなっているように思えます。特に認知症、精神疾
患、乳幼児、妊婦などです。たくさんの避難者に同じ対応をす
ることは一見効率的ですが、現実には問題が多いと思います。
これからは遠方からの支援となります。現地のニーズに沿っ
た支援にしていきたいです。



高校生 の広場

Plaza of high school students



01

高校生 1日医師体験は 毎年春・夏休み開催

- 1回目 ベーシックコース
- 2回目 ステップアップコース
- 3回目以降 アドバンスコース



02

医学科 受験模擬面接 (3年生・予備校生対象)

■10月・2月開催



03

高校生1日医師体験2016春休みに開催

2016年3月25日～4月1日に、医師に興味のある高校生を対象に1日医師体験を開催しました。ステップアップコースでは、今回から「高齢者・患者さんとのコミュニケーションのポイント講座」をしました。看護師が、医療従事者として対高齢者・患者さんで気をつけていることやコツなどをレクチャー、その後実際に患者さんと交流をしました。



さらに、ちょうど医学生が病院実習に来ていた日に医師体験に参加していたみなさんには、医学生との交流もしてもらいました。受験のことや医学生生活のことなど話を聞くことができました。

One book I recommend

「北斗 ある殺人者の回心」

著者 石田衣良

おすすめの本を紹介します。

題を見て分かるようにこの主人公「北斗」は殺人者となる。

「端爪北斗は誰かに抱き締められた記憶がなかった。人の身体が温かいのか、冷たいのか、わからない。」という文章で始まる。幼少の頃から実の父母から壮絶な虐待を受けている描写が続き、胸が苦しくなる。救いはないの



か、誰か、誰かと思ひながら読み進める。

2014年度厚労省の調査によると児童相談所が対応した児童虐待の件数は8万8931件に上るといふ。毎月のように児童虐待によって死亡した子どもの記事が新聞に載っている。この現実を受け止めながら、読んでほしい一冊。あなたの隣にも「北斗」がいるかもしれない。



【紹介者】

学生担当 小池和美

DOCTOR 原田の地域医療café (1～3年生とその保護者対象)

■7月18日(月・祝)14:00～15:30(13:30受付開始)

■場所:サンポートホール高松6F 63会議室

■講師:高松平和病院 原田真吾医師

■参加費:無料 定員:先着45名

※医師や医学生との懇談を予定しています。申込は高校進路指導担当先生へ。

香川医療生協 医学生 奨学生 募集中。



奨学金制度 の趣旨

この奨学金制度は、医学部卒業後に香川医療生協・香川民医連の病院で研修し、地域医療に参加しようとする医学生を対象に、勉学などの経済的な援助を行う目的で設けています。

奨学金概要

一般

1～2年生 5万円/月額
3～4年生 6万円/月額
5～6年生 7万円/月額

特別

全学年 12万円/月額

※返済免除規定あり

奨学生になったら

- point ① 全国の医学生と学び合えるチャンス！
- point ② 低学年から病院実習をかさねて将来の医師像を掴める！
- point ③ 学生生活中的サポートが手厚い！

高校生予約奨学金制度
もあります。

申し込みは随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

香川医療生活協同組合

厚生労働省
指定臨床研修病院

高松平和病院



みき分室 (医・看護学生サポートセンター)



お問合せ・連絡先

高松平和病院

学生担当/小池、中田、野口
tel.090-7579-4259 mail:heiwahp@gmail.com



香川民主医療機関連合会

高松市栗林町1-6-4
tel.087-836-9375
fax.087-836-9376



香川民医連 医学生のページ

検索



Facebook

医学生担当香川民医連

編集
後記

今号からデザインを一新しましたが、いかがでしたか?外見だけでなく、中身も充実させていきたいのでぜひご意見・ご感想をお寄せください。この冊子を通してみなさんとコミュニケーションが取れたらと思うと楽しみです。
(学生担当 中田康博)
※年2回発行予定です。



〒760-8530 高松市栗林町1-4-1
tel.087-833-8113(代表) fax.087-831-1254



〒761-0701 木田郡三木町池戸1538-1森ハイツ1F

発行元：香川民主医療機関連合会